



University of Tsukuba Hospital

筑波大学附属病院 臨床研修案内

筑波大学附属病院 総合臨床教育センター



<http://www.hosp.tsukuba.ac.jp>

University of
Tsukuba Hospital

あなたの目指す キャリアプランが見つかります。

開学以来、常に良質な医師を輩出し続ける筑波大学附属病院。
常に進化し続ける研修プログラムがすぐれた臨床能力を育てている。



ご挨拶



病院長 松村 明

筑波大学レジデント制度は筑波大学附属病院が1976年に開院以来取り入れている制度であり、従来の医局講座制度とは一線を画して6年一貫の卒後臨床研修を総合臨床教育センターでアレンジするものです。その中で初期研修の2年間については幅広い臨床研修を行うべく、総合臨床教育センターの専任教員が様々なローテーションを組んでおり、大学病院と一般病院の両者でそれぞれの特徴を活かした効率的な研修を行うことができます。また、後期（専門）研修へのシームレスな移行も筑波大学レジデント制度の良さです。さらには、本院の初期研修プログラムでは必ず一度は「外科系」、「小児系」の診療を経験することを重視しており、幅広い診療能力の獲得とともに自分の将来の進みたい診療科に応じてフレキシブルな研修を組むことができるようになっています。筑波大学附属病院のレジデント制度では幅広い臨床的能力の獲得はもちろんですが、高度な臨床医としての研究能力を獲得できる「アカデミックレジデント制度」も設けており、生涯にわたるキャリアデザインを考えた際には大きな財産となります。ぜひ、本院の研修制度を有効に活用して大いなるキャリアアップを目指してください。



部長 前野 哲博

筑波大学附属病院は、開院以来常に先進的な医学教育プログラムの構築に努めてきました。卒前・卒後・生涯教育を統括する専任組織として総合臨床教育センターが設置され、専任教員を配置して、教育・研修に関わる全体的なコーディネートを行っています。研修環境としては、2012年には新しい病棟がオープンし、高い専門性を修得できる教育体制のさらなる充実を図っています。また、大学の教員が市中病院に勤務する地域医療教育センター・ステーション制度を全国に先駆けて導入して、大学病院とは異なる地域医療の現場でも充実した指導が受けられるシステムが確立しています。さらに、研究者としてのトレーニングや海外留学支援、女性の出産・育児支援などにも力を入れています。このように、本院ではさまざまな角度から、一人一人に最適なキャリアパスを提供できる体制を整えています。ぜひこの筑波大学附属病院で、自分の目指すキャリアを実現してください。

研修理念

筑波大学附属病院理念のもと、
充実した指導体制と環境の中で、
医師としての人格を涵養し、
将来専門とする分野にかかわらず、
医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、
日常診療において頻繁に遭遇する
病気や病態に適切に対応でき、
地域医療に貢献できる幅広い基本的な
臨床能力(態度・技能・知識)を身に付け、
チーム医療を実践できることを基本理念とする。

Contents

- | | |
|----|------------|
| 1 | ご挨拶 |
| 3 | 研修理念 |
| 3 | レジデント制について |
| 4 | 教育環境 |
| 5 | 初期研修 |
| 7 | 研修プログラムの特徴 |
| 9 | 後期専門研修 |
| 10 | キャリア教育 |
| 11 | 研修生のメッセージ |

レジデント制について

教育構造

本院のレジデント制はジュニア課程(初期研修)、シニア課程、チーフ課程の3段階に分かれており、研修期間はそれぞれ2年間です。ジュニア課程は、厚生労働省の基準に基づいた初期研修を行います。(P5)シニア課程およびチーフ課程は専門分野別に33の養成コースより構成され、高い専門能力を修得するための研修を行います。(P9)

総合臨床教育センター

本院には、教育について包括的なコーディネートを行うため、総合臨床教育センターが設置されています。これは、昭和63年に国立大学としては全国で初めて専任教員が配置された卒後臨床研修部を発展改組したもので、現在、センター部長、副部長、専任医師1名、兼任医師1名が中心となり、レジデントが計画的なカリキュラムに従って偏りなく研修できるように研修のコーディネートを行っています。

【臨床研修に関係する協議会等】

●レジデント研修委員会

教育センタースタッフ、指導教員の中から選ばれた17名のレジデント担当教員、他部門(看護部、検査部、放射線部、薬剤部)の代表等から構成され、毎月、研修プログラムの立案・実施・評価など、卒後臨床研修に関わる全体的な業務についての話し合いを行っています。

●レジデント横の会

各養成コースにおけるレジデントの代表者によって構成され、レジデント同士の情報交換、連絡調整、レジデント診療協議会に対する要望のとりまとめなどを行います。

●レジデント診療協議会

レジデントからの要望に基づき、レジデントの診療における諸問題の検討および改善事項等を協議する会議です。これまで数多くの要望がこの会議で取り上げられ、レジデントの業務・待遇改善が行われました。

●臨床研修協力病院等連絡協議会

本院と関連病院が研修について定期的に協議するための会議で、研修プログラムの作成、研修病院・指導医の認定基準の作成、修了判定、各施設との連絡・調整を行います。



総合臨床教育センター



レジデント横の会



教育環境

●レジデント室

レジデント室には、全員に1つずつの机が用意されています。

各自のパソコンからインターネット接続でき、文献検索システム、オンラインジャーナル、各種データベースにアクセス可能です。男女別の仮眠室もあります。

●各種データベース

EBM(Evidence-based Medicine)の実践に欠かせないデータベースであるUpToDate、MEDLINE with Full Text、DynaMed等が24時間利用できます。

●高度医療技術シミュレーションラボ

総合臨床教育センターに隣接する病院内にあり、レジデントは日中いつでも自由に利用することができます。



ACLS

高度医療技術シミュレーションラボの主な設備

救急蘇生	ACLS トレーニングセット(成人・小児、除細動、モニター含む) BLS トレーニングセット(成人・小児、AED 含む) 気管挿管練習モデル(成人、小児) 気道閉塞モデル
身体診察	心音・肺音シミュレータ 電子聴診器(録音機能付)、コードレス聴診教育システム 眼底診察セット(シミュレータ、検眼鏡) 耳の診察セット(シミュレータ、耳鏡(ビデオ装置付)) 婦人科診察トレーニングモデル(分娩部に配置) 前立腺触診トレーニングモデル 乳房診察トレーニングモデル
手 技	縫合練習セット 採血静注シミュレータ 中心静脈穿刺シミュレータ 静脈穿刺シミュレータ(バーチャルI.V.) 超音波シミュレータ(腹部基本、救急) 上部消化管内視鏡シミュレータ(内視鏡室に配置) 腹腔鏡手術シミュレータ(P7) 血管インターベンションシミュレーショントレーナー(脳動脈、冠動脈) 手術練習用実体顕微鏡



血管インターベンションシミュレータ



中心静脈穿刺シミュレータ

●筑波大学医学図書館

隣接する医学図書館には、約16万冊の図書、約200種類の雑誌が置かれ、9:00~22:00(夏休み期間中は、9:00~20:00まで)まで自由に閲覧が可能です。また約4,700種の電子ジャーナルについては、レジデント室から閲覧でき、プリントアウトも可能です。



初期研修

幅広い研修の選択肢と魅力ある病院群で、
一人一人にあった研修を。



概要

●研修体制

筑波大学附属病院を基幹型病院とする病院群による研修プログラムです。総合臨床教育センターが中心となって研修をコーディネートします。

●研修病院

茨城県の研修指定病院を中心に、51の病院と26の診療所等で病院群を構成しています。独自の基準をクリアした病院・指導医のもとで行われます。

●研修評価

オンラインによる評価
EPOCを用いて行います。



面接評価

研修開始半年後と1年後に中間評価、2年修了時に修了評価を行います。評価は担任の教員による面接方式で、研修目標の到達状況、研修医のコンディション、指導医、研修施設についての情報交換を行っています。



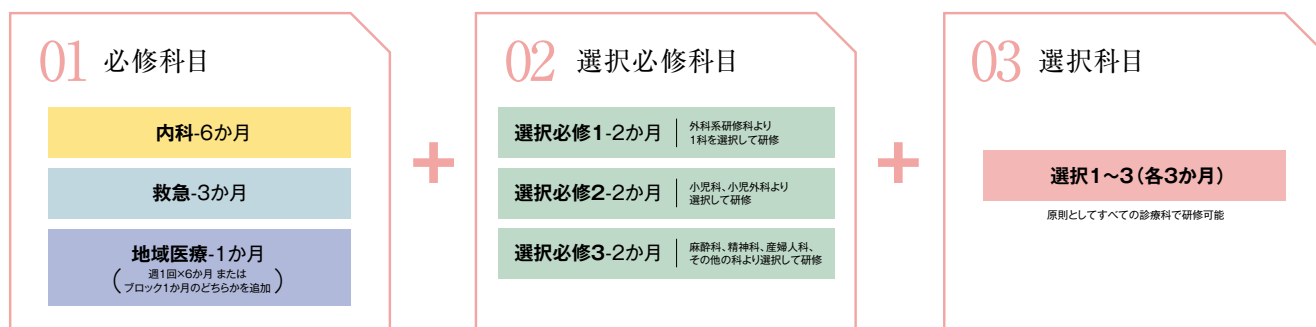
オリエンテーション



修了評価



●ローテーション 一般プログラム



研修の具体的なローテーション例

必修内科 必修救急 選択必修 選択

a) 一般プログラム

〈専門研修分野を重点的に研修：将来脳外科を志す研修医の例〉

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
脳外科			内科系診療科 (院内)			内科 (院外)			救急 (院外)			小児外科			麻酔科			脳外科 (地域医療研修を含む)			脳外科 (院外)		

〈専門研修分野を中心に幅広く研修：将来外科を志す研修医の例〉

内科(院外)			小児外科			乳腺・甲状腺 外科			麻酔科			救急 (院外)			消化器外科 (地域医療研修を含む)			呼吸器外科			心血管外科		
--------	--	--	------	--	--	--------------	--	--	-----	--	--	------------	--	--	----------------------	--	--	-------	--	--	-------	--	--

〈出来るだけ幅広い領域を研修〉

内科(院外)			整形外科			総合診療科			放射線科			産婦人科 (院外)			精神科 (院外)			救急(院外)			小児科(院外)		
--------	--	--	------	--	--	-------	--	--	------	--	--	--------------	--	--	-------------	--	--	--------	--	--	---------	--	--

この半年間は週一回地域医療研修

〈2年目に大学院に所属しつつ行う研修：研究者を志す研修医の例〉

内科 (院外)	救急 (院外)	外科 (院外)	小児 (院外)	精神 (大学)	選択研修 (大学)
				時間外や休日を利用し、大学院生として研究や授業履修を行う	

この半年間は週一回地域医療研修

b) 特別プログラム

小児科特別プログラム

1年目												2年目											
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
小児科(県立こども病院も可能)						内科						小児科・救急(救急救命センター)						小児外科 or 産科		地域 医療	小児専門 施設		

産科特別プログラム

産科(院内)			救急/麻酔 (院内)			内科(院内)			婦人科(院内)			NICU (院内)			精神科 (院内)			外科 (院外)			内科(院外)			産科(院内)		
--------	--	--	---------------	--	--	--------	--	--	---------	--	--	--------------	--	--	-------------	--	--	------------	--	--	--------	--	--	--------	--	--

この半年間は週一回地域医療研修

研修プログラムの特徴

実績豊富な指導医と 安心して研修に専念できる研修環境。

●研修を支える総合臨床教育センター

昭和63年から専任教員を配置するなど、研修コーディネートについて十分な経験と実績を持っています。現在、部長、副部長、専任医師1名、兼任医師1名、事務10名とレジデント担任教員17名が研修のコーディネートにあたっています。

●大学病院・市中病院の持つ特性を最大限に生かした研修プログラム

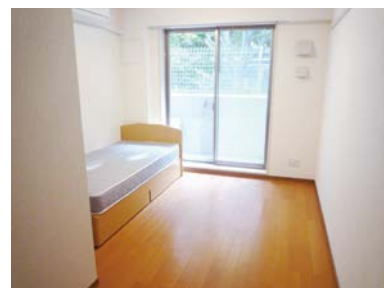
本研修プログラムは、充実した指導体制・研修管理体制・教育資源を持つ大学病院と、common diseaseを中心に数多くの症例を経験できる協力型病院の両方の利点を積極的に取り入れた研修プログラムであり、病院群には茨城県のすべての基幹型研修指定病院が参加しています。本院は1年単位で病院を移動する「たすきがけ方式」ではなく診療科ごとに研修内容、指導内容を評価して1人1人に合わせてきめこまかくローテーションを決めています。研修医は一定の質を保証された豊富な選択肢の中から研修病院を選ぶことができます。また、茨城県、茨城県医師会と合同で指導医養成講習会を開催して、すでに1000人を超える指導医が受講するなど、地域が一体となって研修をバックアップしています。

●地域医療教育センター

筑波大学では全国に先駆けて地域医療の第一線に大学教員を派遣して、地域医療教育の充実を図る地域医療教育センターを導入しました。Common diseaseが数多く経験できる地域医療のフィールドで、大学教員が直接指導することで、十分な指導体制の下研修することが出来ます。



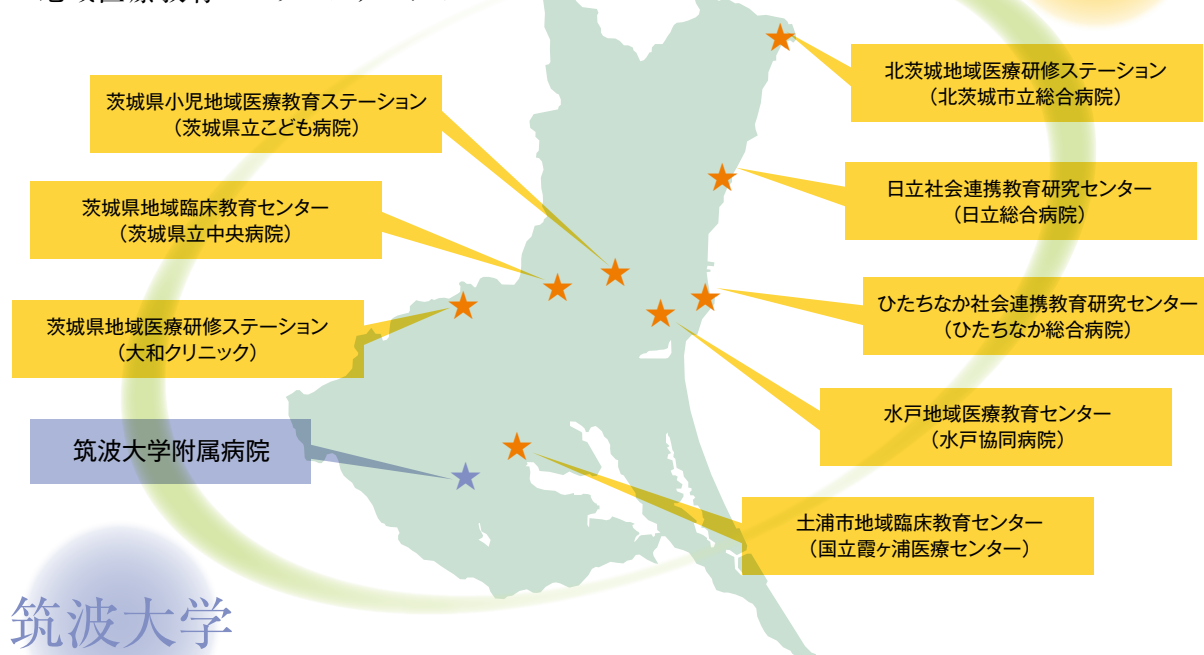
レジデント宿舎



レジデント宿舎

最適の地域医療フィールドに 大学の教育機能を展開

～地域医療教育センター・ステーション～



●安心して研修に専念できる研修環境

研修医室はもちろんのことラウンジ、仮眠室を整備し、研修医同士の情報交換や休憩がとれるように配慮しています。住居に関しては、研修する病院が宿舍または借り上げアパートを用意するなどの配慮をしています。本院では、レジデント宿舍をもち、全部で110室確保しております。処遇は研修病院により異なりますが、本院を含めておおむね月額約30万円以上です。レジデントが医師としての診療や研修に集中できるように、レジデント秘書業務（銀行・郵便局への振込業務、住民票の受け取り、ズボンのすそ上げ等）、ドクターズアシスタント（紹介状の返信、他院フィルムの返却、検体や画像の運送等）を病棟に配置したり、看護師・コメディカルへ病棟業務を一部移行するなど、病院をあげての取組みが行われています。

●保育所の利用・病児保育

病院から徒歩5分の筑波大学構内に職員用保育所があり、研修医を含めた全医師が利用可能です。多様な勤務形態に対応できるように朝7時半～夜22時まで保育可能であり、土日も保育可能です。また、院内に病児保育用の保育室を用意しており、病児保育にも対応しています。

●教育資源の充実

研修医室、高度医療技術シミュレーションラボ室、医学関連だけで200以上のオンラインジャーナルや図書館など、大学病院ならではの教育資源が充実しています。（P4）

●指導体制の充実

本院は指導医の数も多く、また研修指導についての実績があります。さらに、卒後3～8年目の上級医（シニア・チーフレジデント・クリニカルフェロー）が170名以上院内に在籍しており、日常診療でちょっと困ったこと、研修や進路などについて気軽に相談できる体制が整っています。

研修医が知っておくべき基本知識技能についてレジデントレクチャーを年40回以上開催しております。また、救急ローテーション時には救急蘇生の実技試験を行っており、オリエンテーション時の講習と合わせて救急蘇生について反復練習できるように配慮しています。

●レジデント担任制度による研修を通してのバックアップ

本院では、研修プログラムを熟知しているレジデント担任教員（17名）が、4～5名程度の研修医を担任として受け持ち、2年間を通してバックアップします。また、研修医がもし休養やローテーション変更などの具体的な対策が必要になった場合は、総合臨床教育センター全体でバックアップを取る体制が確立しています。

●後期専門研修とのスムーズな連携

本院では、開院当初より全国に先駆けてレジデント制を導入し、後期専門研修を含む6年間のレジデント制度全体を総合臨床教育センターが研修を統括していますので、体系的に整備された後期専門研修にスムーズに移行することができます。また、全基本領域で新専門医制度に対応したプログラムをもつ予定です。（P9）



ゆりのき保育所



担任とのチュートリング



レジデントレクチャー テーマ(例)

● CPCLレポートの書き方	● 抗菌薬の使い方	● 薬疹の見方
● しびれについて	● 喘息のみかた	● 肝機能検査の読み方／ウイルス肝炎マーカーの判定の仕方
● 深部静脈血栓・肺塞栓	● 救急外来でよくみる精神症状とその対応	● 咳「頑固な咳への対応」
● 腹部CTの適応と読影の基本	● 妊娠と薬剤・X線検査	● 眼科救急疾患
● 経腸栄養	● 腎障害時の薬物使用法と薬剤性腎障害	● 当直医が見逃してはならないこどもの病気
● 血糖のコントロールについて	● 癌性疼痛のコントロール	● 頭部CT、MRIの適応と読影の基本
● 関節痛の診断および治療	● 整形外科領域の外傷患者への対処法	● 神経学的所見のミニマムエッセンシャル
● 脳卒中のプライマリーケア（意識障害、麻痺をどうみるか）	● 症状への対応—2胸痛	● 外来当直で遭遇する小児外科疾患
● 耳鼻科領域の救急疾患（鼻出血・異物）	● 尿路生殖器感染症の診断と治療	● 腹痛の鑑別診断
● 放射線治療の適応と評価	● 急性腹症としての婦人科疾患	● 急性腹症の外科治療
● 症状への対応—1頭痛	● せん妄に気付く～診断と対応のポイント	● 症状への対応—3意識障害
● 昇圧薬・降圧薬の使い方	● 急性冠症候群（up-to-date）	● 創傷治療・消毒
● 胸部X線写真の見方	● めまいへの対応	● エコーガイド下中心静脈穿刺法（年2～3回）
● 尿路カテーテルの適応と管理	● 不整脈のABC（抗不整脈薬の使い方）	● 嚥下障害の診かた
● 筋電図からわかること	● 胸腔・心のうドレナージ	
● 頸部、乳腺、腋窩の触診	● 高カロリー輸液	

後期専門研修

レジデント制度のもと、大学病院ならではの幅広い研修と高度な技術の訓練が可能。

●レジデント制による研修です。

初期研修と同じように有期限（シニア課程2年、チーフ課程2年の合計4年）、定員制の研修プログラムです。研修のコーディネートは各養成コースが中心になって行いますが、レジデントの採用・修了認定、研修病院の調整、メンタルヘルスケアなどについては、初期研修と同様に総合臨床教育センターが担当します。なお、研修の途中で養成コースを変更したい場合にも、総合臨床教育センターが窓口となって調整します。

●シニア課程、チーフ課程ごとに修了認定を行います。

チーフ課程修了時には総合臨床教育センターで一括して外部評価者を含む修了認定を行い、病院長から修了証書を授与されます。

●各学会における認定医・専門医・指導医などの資格が取得できるよう配慮された研修プログラムです。

後期研修プログラムは、養成コースごとに修了基準を設け、それぞれ関連するおこな学会の資格を取得するのに必要な症例経験と臨床能力が修得できるように配慮されています。新専門医制度においては全基本領域でプログラムをもつ予定です。

●充実したシミュレーションラボを持ち専門技術の訓練が早くから出来ます。

大学病院ならではの充実したシミュレータにより技術の訓練が可能です。血管インターベンションシミュレータや腹腔鏡・関節鏡のバーチャルリアリティシミュレータ、手術練習用実体顕微鏡など高度なトレーナーがあり、主に外科系の後期研修医対象に医療の質・安全を確保しつつ、高度なスキルを身につけることが出来ます。

●クリニカルフェロー

レジデント修了後、さらに高度な専門能力を修得するためのシステムです。

各診療グループの診療を通じて、専門性の高い医療技術の修得を目指します。

採用されている期間については給与が支払われますので、処遇の面でも安心して診療に専念できます。

後期専門研修同様総合臨床教育センターが窓口となってコーディネートします。



レジデント修了式

平成 26 年度レジデント養成コース

●総合診療コース	●感染症内科コース	●外科コース	●泌尿器科コース
●内科コース	●小児科コース	消化器外科コース	●産婦人科コース
消化器内科コース	●精神科神経科コース	心臓血管外科コース	●麻酔科コース
循環器内科コース	●皮膚科コース	呼吸器外科コース	●耳鼻咽喉科コース
呼吸器内科コース	●放射線診断・IVRコース	乳腺・甲状腺・内分泌外科コース	●眼科コース
腎臓内科コース	●放射線腫瘍科コース	小児外科コース	
内分泌代謝・糖尿病内科コース	●診断病理コース	●形成外科コース	●歯・口腔コース
膠原病リウマチアレルギー内科コース	●臨床腫瘍コース	救急・集中治療コース	
血液内科コース	●リハビリテーション科コース	●脳神経外科コース	●法医学コース
神経内科コース		●整形外科コース	



ダヴィンチ



胸腔鏡・腹腔鏡手術シミュレータ



マイクロサージェリートレーニング

キャリア教育

様々な希望の進路に応じるための 充実したキャリアサポート。

●アカデミックレジデント

後期研修を行いながら、大学院を平行して進めることが出来ます。

レジデント修了と博士号の両方を、より早く取得することが出来るようになります。

後期専門研修を行っている期間は必ず給与が支払われますので、処遇の面でも安心して研修、研究をすることが出来ます。

▼アカデミックレジデントのプログラム例▼

例(卒後7年目でレジデント修了、博士号取得)

卒後1年	卒後2年	卒後3年	卒後4年	卒後5年	卒後6年	卒後7年
初期研修		後期専門研修		リサーチ・ イヤー※	後期専門研修	
大学院						

※リサーチ・イヤー:研究に専念する期間で、期間・時期は、個々の状況で異なります



博士号
取得!

博士号
取得!

一般的な研修例(卒後6年目でレジデント修了、10年目で博士号取得)

卒後1年	卒後2年	卒後3年	卒後4年	卒後5年	卒後6年	卒後7年	卒後8年	卒後9年	卒後10年
初期研修		後期専門研修				大学院進学			

●女性医師看護師キャリアアップシステム

女性医師・看護師が、プライベートライフと両立しながらキャリアを重ねていけるように支援する取り組みです。

参加者は個々の女性医師の、技術・獲得したい技能の内容と、育児などのプライベートライフとの両立について、専任のキャリアコーディネーターと十分に相談の上、個別に半日~30時間/週の研修プログラムを設定して研修を行います。

筑波大学が運営している保育所、搾乳スペースを利用することが可能です。また、院内保育室を利用した病児保育の利用が可能です。



●海外短期留学支援制度

当院では国際的に活躍する人材の育成を目的とし、レジデント・クリニカルフェローの期間に有給で海外研修(渡航費なども支給)を行うことが可能です。平成24年度5名、平成25年度4名が留学しております。この制度以外にも、外国人講師による英語による問診法やカンファレンス、教育講演の他、留学生との交流の場を設けるなどの取組を行っております。

●キャリアアップレジデント

他病院の後期研修医を対象として大学病院のもつ専門的な知識や技術の修得のため、当院での短期の研修を受け入れています。

本院採用の研修医と同等の診療行為を、指導教員の指導の下に行います。

総合臨床教育センターが研修をコーディネートします。

採用中は給与が支払われますので、安心して研修できます。

期間は原則として1科3か月以内、計12か月以内となります。



海外講師教育回診

研修医からのメッセージ



01 市中病院と大学病院の両方を自分の希望に合わせて研修することができることが魅力。

一般プログラム
藤原 彩織 先生

私は学生実習で外科に興味を持ち、将来は外科系の診療科に進もうと漠然と考えていました。筑波大学附属病院の初期研修プログラムを選択した理由は、市中病院と大学病院の両方を自分の希望に合わせて研修することができることが、将来の進路を決定する上でも、またある程度進路が決まった後でも、自分の目的に合わせやすいと考えたからです。私は現在2年目の研修中ですが、実際に働き始めてみると、初期研修の2年間というのは自分が考えていたよりも本当に短いものだと感じています。この限られた時間の中で、様々な病院で研修させていただき、多くの先生方や様々な考え方を見ることができるのは、自分の将来を考える上でもとても勉強になっており、この環境にとっても感謝しています。初期研修の2年間は、基本を身につけたり、自分の進路を決定したりと、大切な時期になります。筑波大学附属病院のような自由度の高いプログラムは、研修医が自分に合った形で研修するのは、恵まれた環境だと思います。皆さんの研修が有意義なものになるよう応援しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	放射線診断科(大学・必修内科枠)			形成外科(大学)			必修内科(ひたちなか総合病院)			外科(ひたちなか総合病院)		
2年目	小児外科(大学)		麻酔科(大学)		乳腺甲状腺外科(大学)		必修救急(水戸協同病院)			精神科(大学)	内科(筑波学園病院)	

← 6カ月間×週1回地域医療研修(診療所) →

02 様々な環境で働く先輩方を見ることが自分の進路を決める上で最も参考になる。

一般プログラム
久後 舟平 先生

学生時代から大学や市中病院で働く研修医の先生方を見ていて、様々な環境で働く先輩方を見ることが自分の進路を決める上で最も参考になると考えた結果、市中(最大16ヶ月、5病院)と大学をフレキシブルに出入りできる筑波大学の研修プログラムを選びました。実際に働いてみると考えていたものより自由度は高く、臨床教育センターの先生方と相談して1年目の10月頃に2年目のローテーションをじっくり相談して決めることが出来ました。2年目の10月頃には入局や具体的な進路を決断することになるので研修する時期というのはとても大事になってきます。特に何科に進むか迷っている人には筑波大学での研修を強くお勧めします。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	必修内科(とりで総合医療センター)			必修救急(とりで総合医療センター)			泌尿器科(大学)		整形外科(大学)		麻酔科(大学)	
2年目	救急集中治療(大学)		精神 こころの 医療センター	外科・地域医療 (きぬ医師会病院)			小児 (ひたちなか総合病院)		脳外科 (県立 中央病院)	必修内科(県立中央病院)		

03

自らの希望に合わせて 研修内容をつくり上げることができるのが魅力。

小児特別プログラム
奥脇 一 先生

私は学生のときの実習で小児科に興味を持ち、将来の進路を小児科に決めました。その上で初期研修では小児特別プログラムを選択しました。小児特別プログラムは、基本的に大学が規定する初期研修のルールの中で、オリジナルの研修プログラムを作成します。マッチング後に小児科の研修担当の先生と直接お会いし、自分の希望を伝えながら研修内容を作り上げます。私の場合は小児の専門医療と、急性疾患のプライマリ・ケアの双方を重点的に学べるようなプログラムを作成しました。具体的には1年目に大学病院の小児科を3ヶ月間研修し、新生児をふくめた小児の採血や点滴、診察法といった基本的な手技とともに、大学病院でしか経験できない希少疾患や専門性の高い高度医療について学びました。また、小児科だけではなく、多科が連携して小児の治療を行うことも筑波大学の小児医療における大切な役割であり、その点も大変勉強になりました。2年目には県内でも特に3次救急を含めた救急患者が多く集まり、指導体制も確立した基幹病院で「小児科」と「救急科」を連続して6ヶ月間研修する予定です。ここでは大人も含めた急性疾患のプライマリ・ケアを身に付けることが目

標です。さらに、画像診断・超音波を重点的に学びたく、1年目に放射線診断科を研修し、2年目には小児周産期分野として、産科と小児外科を選択しました。また、後期研修を見据え、勉強会やカンファレンスなど研修以外でも勉強する機会が積極的に与えられ、研修医1年目のうちに新生児蘇生法やPALSと言った資格をとることもできました。小児特別プログラムは、自らの希望に合わせて研修内容をつくり上げることができます。その時に小児科として診療されている先生たちからの助言もうけることができ、非常に参考になると思います。小児科医を志す方が小児特別コースで研修をおこない、一緒に筑波大学の小児科で働くことを楽しみにしています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	必修内科(ひたちなか総合病院)						小児科(大学)			放射線診断(大学)		
2年目	産婦人科(大学)		小児外科(大学)		麻酔科(大学)		小児科(筑波メディカルセンター)			必修救急(筑波メディカルセンター)		

← 6カ月間×週1回地域医療研修(診療所) →

屋根瓦方式の指導体制により 自らの臨床能力を高めることができる。

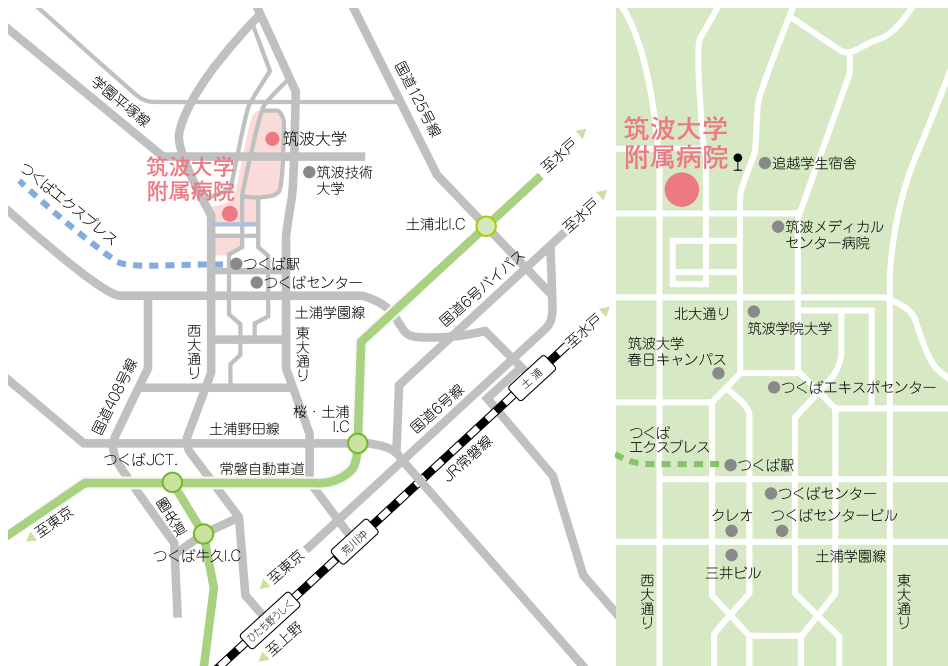
産科特別プログラム
細川 義彦 先生

私は筑波大学附属病院産科特別プログラムで2年目の研修を行っています。筑波大学附属病院での研修を語る上で欠かせないものが屋根瓦方式の指導体制です。私たち研修医は上級医から手厚い指導を受ける一方で、1年目の研修医や学生に対しては自ら指導を行っています。指導を行うからには正しい知識が必要であり、指導することで自らの臨床能力を高められていると思います。産科特別プログラムならではの特徴としては1年目より後期研修医と同様の教育を受けることができます。帝王切開などの手術執刀、分娩の管理や超音波・診察手技を身につけることができました。産婦人科以外にも麻酔科や小児科はもちろん、産科を意識した代謝内科や膠原病内科なども研修できました。また、骨盤内臓器を意識して泌尿器外科や消化器外科を研修することもできます。すなわち、自らの研修プランを個別にアレンジできることが産科特別プログラムの最大のメリットだと考えています。産婦人科以外の科では基本的な研修内容に加えて、産婦人科医にとって必要な知識を個別に指導してもらえ、それぞれの科でモチベーションを落とさずに研修することができました。

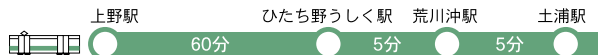


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	産科(大学)		代謝内科(大学)		膠原病内科(大学)		救急・麻酔(大学)			婦人科(大学)		NICU(大学)
2年目	消化器内科(大学)			泌尿器科(大学)			内科・地域医療 (セントラル病院)		産婦人科(大学)			

アクセスMAP



● JR常磐線



● つくばエクスプレス



● 高速バス (つくばセンター行 or 筑波大学中央行)



● JR常磐線利用

上野から約1時間、ひたち野うしく、荒川沖または土浦で下車、各駅から「筑波大学中央」行バスで約30分(筑波大学病院入口で下車)または、「つくばセンター」行バス「終点」つくばセンターで下車し、「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行バスに乗り換え、約10分(筑波大学病院入口で下車)

● つくばエクスプレス利用

秋葉原駅から快速で45分、つくば駅で下車、つくばセンターで「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行バスに乗り換え、約10分(筑波大学病院入口で下車)

● 常磐高速バス利用

東京駅八重洲南口から「筑波大学中央」行の高速バスで約1時間10分、またはつくばセンター行き的高速バスで約1時間、つくばセンターで「筑波大学循環(右回り)」または「筑波大学中央」行バスに乗り換え、約10分(筑波大学病院入口で下車)

筑波大学附属病院で実習・見学を希望される方へ

筑波大学附属病院では、随時実習・見学を受け入れています。

希望される方は、総合臨床教育センターホームページよりお申し込みください。

<http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/sotsugo>

 @tkb_hosp_kensyu

筑波大学附属病院 総合臨床教育センター

〒305-8576 茨城県つくば市天久保2-1-1 筑波大学病院総務部総務課教育支援

TEL.029-853-3516・3523 E-mail:kensyu@un.tsukuba.ac.jp

<http://www.hosp.tsukuba.ac.jp/sotsugo/>  @tkb_hosp_kensyu